

ミライのフツーツーに 向かって

山村と都市が共存する豊田市で、どんなミライをめざしていくのか。そのミライのフツーツーをどのように作っていくのか。おいでん・さんそんセンターを運営する（一社）おいでん・さんそんの正会員に想いを語ってもらいます。

とだ ゆうすけ
第3回 戸田友介さん

2009年、豊田市と東京大学との産官学連携過疎対策事業「日本再発信！若者よ田舎を目指そうプロジェクト」に取り組む。2011年、旭地区に移住。（株）M-easy代表取締役。（一社）おいでん・さんそん理事



鳥のさえずりが心地よく響き渡る。山里では、いつものように季節が巡ってくる。まちでもいなかでも、今までもこれからも、私たちは自然と向き合いながら暮らし、生きている。

社会には思い通りにいかないことが満ち溢れている。それがそもそも自然なことであるという認識からスタートしたい。その上で、私たちは、ひととひとの関わり合いを大切にしながら柔軟に暮らしに向き合っているだろうか、コミュニティの一員としてかかわり続けようとしているだろうか、誰かに決められたことに縛られすぎているだろうか、自分と他人にやさしさをもって接することができるだろうか。ミライのフツーツーは、今はフツーツーではないということ。今の非常識の中に、これからのミライに向けたヒントが隠されている。

先行きが見えない社会の中で、不安に押しつぶされることなく、足元の人たちを大切にしながら、問い続け、行動し続ける、誰か任せにするのではなく、ひとりひとりが当たり前前を当たり前前にできる、そんな自然なミライに向かっていきたいと思う。



募集情報

ミライの職業訓練校2022受講生募集 オンライン&リアル ハイブリッド開催

『ミライの職業訓練校』は、豊田市の山里をフィールドに、今の働き方の中で感じる“モヤモヤ”を深め、自分がやりたいことを見つけ、仲間とともに切磋琢磨しながら、カラダとココロが喜ぶ「あなたの天職」を探すための学校です。

●募集対象

- *中学生から大人まではたらくことにモヤモヤを感じている人
- *今のはたらきかたを見直したい人
- *田舎ではたらくことを模索している人
- *ミーティングアプリZoomによるオンライン参加可能な人

●定員 15名程度

●コース 本コース [18,000円/年6回] ※中高生学割 [3,000円/年6回] お試し参加 [5,000円/回] ※中高生学割 [500円/回] ※途中退会の場合は、経過分の回×5,000円を差し引いて返金します。※その他、オフ会で必要な実費のみ負担があります。

●スケジュールと内容

基本スケジュール

10:00～12:00午前の部 12:00～13:00ランチタイム
13:00～16:00午後の部

【第1回】7/10(日) 10:00～16:00オリエンテーション自分史ワークショップ 【第2回】8/7(日) 10:00～16:00高野雅夫校長による先輩インタビュー&対談、もやもや語り 【第3回】9/3(土) 10:00～16:00戸田友介講話、当事者スゴロクワークショップ 【第4回】10/23(日) 10:00～16:00高野雅夫校長による先輩インタビュー&対談、もやもや語りと仮説転がし 【第5回】12/4(日) 10:00～16:00高野雅夫校長講話、もやもや語りと仮説転がし 【第6回】1/14(土) 13:00～16:00みんなの成果報告会

●参加形態 対面もしくはオンラインZoom

対面の会場はつくラッセルまたはすげの里。対面の場合もオンライン参加者を考慮して、ZOOMにて講座に参加していただけます。会場にノートパソコンなどZOOMが使えるものを持ち込みしてください。社会情勢および要望に応じてオフ会または合宿を開催予定です。

●申し込み方法

氏名、住所、電話番号、メールアドレス、志望動機(400字程度)をご記入の上、ホームページのお問合せフォームに必要事項記載の上送信ください。また電話0565-62-0610(平日8:30～17:00)、FAX送信0565-62-0614でもお申込み可能です。

●募集締切 6月30日(木)

●主催 (一社) おいでん・さんそん



↑受講申込ページはこちら



「まちとむらをつなぐ」おいでん・さんそんセンターの活動をご紹介します!

おいでん・さんそんSHOW

6月号
2022.06.01発行

PICK UP 足助地区と稲武地区のわくわく事業で、地域外の住民が関わる団体が申請



そこに住んでいなくても地域づくりに関われる!



有志団体「Burupon(ブルボン)」のメンバーが立っているのは、今年度本格的に整備して新盛自治区すげの里周辺の耕作放棄地

「高齢化と人口減少が進んでいます」は、ここ何年も聞き続けているフレーズではないでしょうか。具体的な数字で見てみると、豊田市の山村地域5地区(足助、旭、小原、稲武、下山)の人口は、合併時の26,248人から27.0%減少、高齢化率(総人口に占める65歳以上の割合)は、30.2%から13.7ポイント上昇し、今年5月1日現在、人口19,160人、高齢化率43.9%となっています。(豊田市オープンデータ)

高齢者が増えてくるということは、これまでやってきたことが従来のようにできなくなってくるということ。例えば、近年山村地域では、「田んぼが体力不足でこれ以上継続できない」という話がよく聞こえてきます。

高齢化、人口減少が進んでも、その地域に住んでいない人たちが継続的に関わり続けることで、地域が維持される。そんな事例が全国で現れ始め、その地域外の人たちが、「関係人口」と呼ばれています。

今回、足助地区と稲武地区の「わくわく事業」では、この関

係人口の事例に当てはまる申請がありました。

わくわく事業とは、地域資源(人、歴史、文化など)を活用し、地域課題の解決や地域の活性化に取り組む団体を支援する地域活動支援制度です。これまで、その地域の住民が団体を組織して補助金申請をしていましたが、この度、足助と稲武で、「地域外の人」が組織した団体、またはメンバーに加わった団体が補助申請をしました。

地域外の住民が、地域に関わり続けることで、地域の維持につながるとはどういうことなのか。この2事例をご紹介します。みなさんに理解してもらえるのではないかと思います。





①Buruponメンバーのお子さんたちの楽しげな声が響き渡る
②田植えは機械と手植え、両方を体験
③すげの里のピザ窯を使って焼く昼食用のピザには新盛産直市場の野菜や猪鹿工房山恵のソーセージをトッピングした
④稲武地区わくわく事業のプレゼンをする代表の古橋崇史さん

トヨタ労組の農業体験がきっかけで団体立ち上げ

足助地区のわくわく事業に申請したのは、有志団体「Burupon (ブルポン)」です。Buruponは、2021年7月に発足し、現在メンバーは21名。市内製造業の社員とその家族が業務外の活動として、新盛自治区で主に農体験、里山体験をしています。

共同代表の辻竜也(つじたつや)さんは、昨年、同自治区にある豊田市里山くらし体験館「すげの里」周辺の市民農園でトヨタ自動車労働組合が主催する農業体験に参加。豊田市街地に住んでいる辻さんは、7歳と5歳のお子さん、奥様を連れて毎月すげの里に宿泊していたそうです。「宿泊した際、地域の方がブルーベリー摘みをさせてくれるなど親切にしてくれました。高齢化して担い手不足になっている話を伺い、お世話になった新盛に恩返ししたい、自分がやらなければ何も始まらないと感じました」とBurupon立ち上げのきっかけを話します。

その後、就業先で実施されている業務時間外の有志活動をプレゼンするビジネスモデルコンテストに応募。「里山と市内の若い世帯がお互いに助け合い、持続的に豊かに暮らす世界をつくる」というコンセプトに共感した社内、社外の方が少しずつメンバーに加り、現在に至っています。

2022年度は耕作放棄地2,600平方メートルを再生していく予定になっています。将来的にはBuruponFARMとして市民農園を開園し、都市住民が稲作、野菜栽培、動物とのふれあいなどを体験できるようにしていきたいと考えているそうです。

地元住民の知恵と経験が引き継がれる

新盛自治区では、定年退職間近の地域住民が2008年

に「新盛里山耕流塾」を発足。里山ならではの楽しみや技を体験できる講座、市民農園などを主催し、都市住民と交流しながら、里山や農地の荒廃を解消してきました。年月が過ぎ、主要なメンバーが高齢化して継続が困難になっていたタイミングで、Buruponが立ち上がり、新盛自治区で活動していくことになりました。助けてもらったのではなく、都市住民の心を豊かにする場として、新盛自治区の農地や土地が引き継がれていく。もう無理かと思われていた「地域を守っていくこと」が可能になる好事例が生まれました。

センサー、自動農装置を開発して獣害対策

稲武地区のわくわく事業に申請したのは、獣害対策・山村部IoT(※1)活用プロジェクト(以下、プロジェクト)のみなさん。メンバーは7名。代表は稲武地区在住のエンジニア、古橋崇史(ふるはしたかし)さんです。古橋さんを含む4名は、稲武で農業を営む「ファームいなぶ営農組合」に所属し、3名は地域外のエンジニアです。

豊田市の鳥獣害の被害金額はここ数年1億円前後にのぼり、深刻な状況です。昨年ファームいなぶで栽培しているトウモロコシのうち2000本が被害を受け、およそ40万円の損失がありました。プロジェクトでは、獣害被害を抑制し、農業をやめてしまう農家を減らすことを目的としています。

現状、獣を捕獲するために各地に罠を仕掛ければ、猟師は捕獲されているか否かに関わらず見回りをしなければなりません。できるだけ安価なセンサーや自動農装置を開発して普及させ、捕獲情報を猟師のスマートフォンに通知することができれば、見回りの手間が減らせます。しかし、そこに電波がなければ猟師に通知されないため、中継機を何箇所か設置し、確実に情報を届けることも考えていま

す。また、AI(人工知能)を備えれば、動物の特定ができ、例えば国の特別記念物カモシカは罠にかからないようにすることが可能だそうです。この罠のシステムがどこでも使えるよう、ソーラー蓄電池も開発予定です。

稲武の課題解決をするエンジニアを増やしたい

このプロジェクトのもう一つの狙いが、稲武に関わるエンジニアを増やすこと。代表の古橋さんは現在、IT(※2)エンジニアとしてリモートで首都圏の仕事を受けていて、「ITエンジニアの仕事はどこにいてもできること」を実感しています。また、古橋さん曰く「ITに限らず、エンジニアは何かを解決したくて仕方のない人たち」。稲武には獣害対策以外にも、ITで解決することができる課題があると感じている古橋さんは、その課題を集約し、日本全国に発信することで、地域課題解決に携わる優秀なエンジニアを増やしていきたいと考えています。

今回のプロジェクトには、実際に3名の地域外エンジニアがメンバーとして関わっていて、何度も稲武に足を運んでいます。そのうち1名はマイコンと呼ばれる電子部品のプログラム開発を得意とするエンジニア。彼は獣害対策のシステムを作るにあたって、現場のことを知る必要があると、2021年9月に狩猟免許(わな猟、あみ猟、銃猟)を取得し

たそうです。「日本は食糧自給率を上げていく必要があると感じていました。稲武で、他のエンジニアと協力して農の課題解決のためのものづくりができることをうれしく思っています」と話していました。また、他の2人からは「稲武で活動させてもらえることがありがたい。また地域の人たちの優しさが魅力」、「農家さんたちの笑顔が見たいから頑張ることができます」と、プロジェクトに関わる喜びを聞くことができました。

人口減少・高齢化、獣害。山積みの課題の中には、地域外のエンジニアのアイデアやITで課題解決できることがある。また、エンジニアにとっても自らの技術を活かせるフィールドが得られるなど、この事例も双方にメリットがあることがわかります。

上記のわくわく事業申請団体の事例から、「人口減少、高齢化が進んでも、地域に住んでいない人たちが継続的に関わり続けられれば、地域が維持できる」ことの可能性をご理解いただけましたでしょうか?当センターでは、2つの団体がこれからどのような活動を続け、どんな成果を上げていくのか、引き続き注目していきたいと思えます。今回ご紹介した「関係人口」の取り組みに興味のある方はぜひ、ご連絡ください。(木浦幸加)



report デイサービス型地域活動支援センター「畦道」から移転し、地域ならではの活動を続ける

新盛自治区に、就労支援B型事業所「よりみち」が開所



『NPO法人みち』が就労支援B型事業所「よりみち」を5月に開所しました。代表の今枝美恵子さんと副代表の鈴木悠太さんは大学の同期。再会をきっかけに2017年『NPO法人みち』を立ち上げ、病気や障がいのある方が住み慣れた地域で通える居場所、働きたいと望む方を支援できる場所を作ろうと、同年の5月に足助地区新盛自治区でデイサービス型地域活動支援センター「畦道(あぜみち)」を開所しました。2022年5月、事業をより充実させるため畦道と同自治区にある築51年の古民家を改築して「畦道」から「よりみち」に移転されました。当センターも物件探しのお手伝いをさせて頂きました。

先月、「よりみち」の内覧会に伺ってきました。足助の香嵐溪から車を10分程走らせたと所に「よりみち」はありません。改築された建物に入ると木のよい香りがしました。地元材の床板を張った活動室の広い窓からは田んぼや山が見え気持ちのいい空間になっていました。部屋数が増えたので、利用者の方のペースに合わせて、作業や活動がしやすくなる

と説明がありました。ここを拠点とし、就労支援B型事業所として、豊田市産の木材を活用した木工商品作り、薪割り、農作業、綿から糸を紡ぐお仕事、お寺や空き家の掃除、一人暮らしの高齢者宅の草取りなど、この地域ならではの活動を継続していくそうです。利用者の方に寄り添い、地域の方との関わりを大切にしている「NPO法人みち」は、これからも地域の力となり、地域になくってはならない存在になっていくと感じました。(本多さおり)



(左)古民家を改築して開所した「よりみち」(右)代表の鈴木悠太さんと今枝美恵子さん

(※1)IoT…Internet of Thingsの略。様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み

(※2)IT…Information Technorolyの略。インターネットなどの通信とコンピュータとを駆使する情報技術